

すみた 議会だより



No. 163

平成30年
10月26日

「みぎよし・ひだりよし
手をあげてわたろう！」

《有住保育園》

9月議会で決まったこと

29年度決算審査の概要

行政報告

我が町政を問う（7議員が一般質問）

特集「合併処理浄化槽で環境改善」

②

④

⑨

⑩

⑱

ステーション開設



医療資源
不足の補完へ
『複合的サービス』を目指す
年度内事業開始に

△保健・医療・福祉・介護が連携し、新たな社会資源の創出を含めた医療体制の構築が期待される

保健医療介護連携体制構築事業費補助金として1700万円を計上。
町の課題である医療資源不足を補完する訪問看護ステーション開設に向けた経費。
保健医療介護連携体制構築検討会を設置し、訪問看護機能を軸とした複合的サービスの構築を検討してきました。
運営は、一般社団法人未来かなえ機構が担い、看護師の拠点は、町保健福祉センター内に設置。職員は5人体制のうち4人が看護師で今後採用を進めます。
アンケート調査を行いながら、利用者の動向やサービス内容の洗い出しなどを進め、高齢者らの在宅などを支える事業展開を見据えます。11月ごろに準備室を立ち上げ、来年2月の開設を目標としています。

9月定例会は、9月4日から9月18日までの15日間の会期で開かれました。今夏は、異常気象と呼べるほどの猛暑や集中豪雨、台風、大地震を目の当たりにしました。一般質問には7議員が登壇し当局と論戦を交わしました。

その後、報告、条例の改正、補正予算審議、財産の取得、固定資産評価審査委員の選任同意、教育長の任命同意、工事請負契約、平成29年度決算の認定を審議し、全議案を原案のとおり可決しました。

☆平成30年9月補正予算の主な事業

■LGWAN機器設定変更業務委託料	68万円	■林業経営体育成対策事業費補助金	950万円
■介護補装具給付費	150万円	■観光物産体制整備事業委託料	320万円
■国民年金システム改修委託料	82万円	■道路新設測量設計調査委託料	780万円
■保健医療介護連携体制構築事業費補助金	1700万円	■町営住宅解体工事費	424万円
■(株)いわちく豚処理施設整備事業出資金	300万円	■教育コーディネーター報酬	270万円
		■自治公民館等運営費補助金	161万円

訪問看護



△町保健福祉センター内に訪問看護ステーションの拠点が設けられ、高齢者らの在宅を支える事業展開を見据える

問 保健医療介護連携体制構築事業費の財源確保は。

答 訪問看護ステーション開設にあたり、県担当部署に問い合わせしてきたが、該当補助事業がなく、今回の開設費用は一般財源で行うもの。

問 訪問看護ステーションの収入見通しは。

答 診療報酬、利用者の一部負担が見込まれる。

学校 修繕場所は
体育館の照明

問 学校管理費の需用費273万6千円の用途は。

答 ①有住・世田米中体育館の照明施設など修繕、②有住中浄化槽減衰ポンプの交換修繕。

問 教育コーディネーターの配置状況は。

答 住田高校の自習支援事業の実施に向け、1名の追加は選考中。その他講師3名を配置予定。

いわちく 出資金の用途は
豚処理施設改築

問 いわちく豚処理施設改築の用途は。

答 老朽化した豚処理施設の改築により、処理頭数35万頭、加工処理31万5千頭に増頭。浄化槽、受水層を整備する。

林業 経営体育成は
トラック導入

問 林業経営体育成対策事業費補助金の用途は。

答 気仙地方森林組合が事業主体となり、グラップル付きトラック1台を導入するもの。

観光 委託先は
住田観光を認定

問 三陸防災復興プロジェクト2019推進観光物産体制整備事業委託料の内容は。

答 東日本大震災津波の記憶と教訓を伝え、三陸地域の多様な魅力を発信、交流により認知度を高めるための事業。当町は、住田観光開発(株)の事業を認定。ネットショップ事業、災害協定締結町村との物産交流、滝観洞のポスター、チラシの作成、LED照明施設設置、看板新設などを実施。

財産の取得

- 1 取得する財産
スクールバス 1台
(世田米小・中学校
通学用)
- 2 取得予定価格
721万8320円

工事請負契約の締結

- 1 工事名
馬洗橋補修工事
(世田米字大崎地内)
- 2 契約金額
6102万円
- 3 請負者
(有)山崎工業
- 4 工期
平成31年3月14日

特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正

平成27年4月1日施行された地方教育行政に関する改正法による新教育委員会制度に基づき、教育委員長と教育長を一本化した新たな責任者(新教育長)を置くことから、教育長の給料の月額を改定した。

住田町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正

中上団地3戸、火石第二団地1戸を解体し、町営住宅4戸を廃止するもの。

人事案件に同意

[教育委員会 教育長]



菊池 宏氏
下有住(65才)

任期:平成30年10月1日から3年間

[固定資産評価審査委員]

金野 孝氏
下有住(61才)

任期:平成32年6月30日まで

心安全を推進

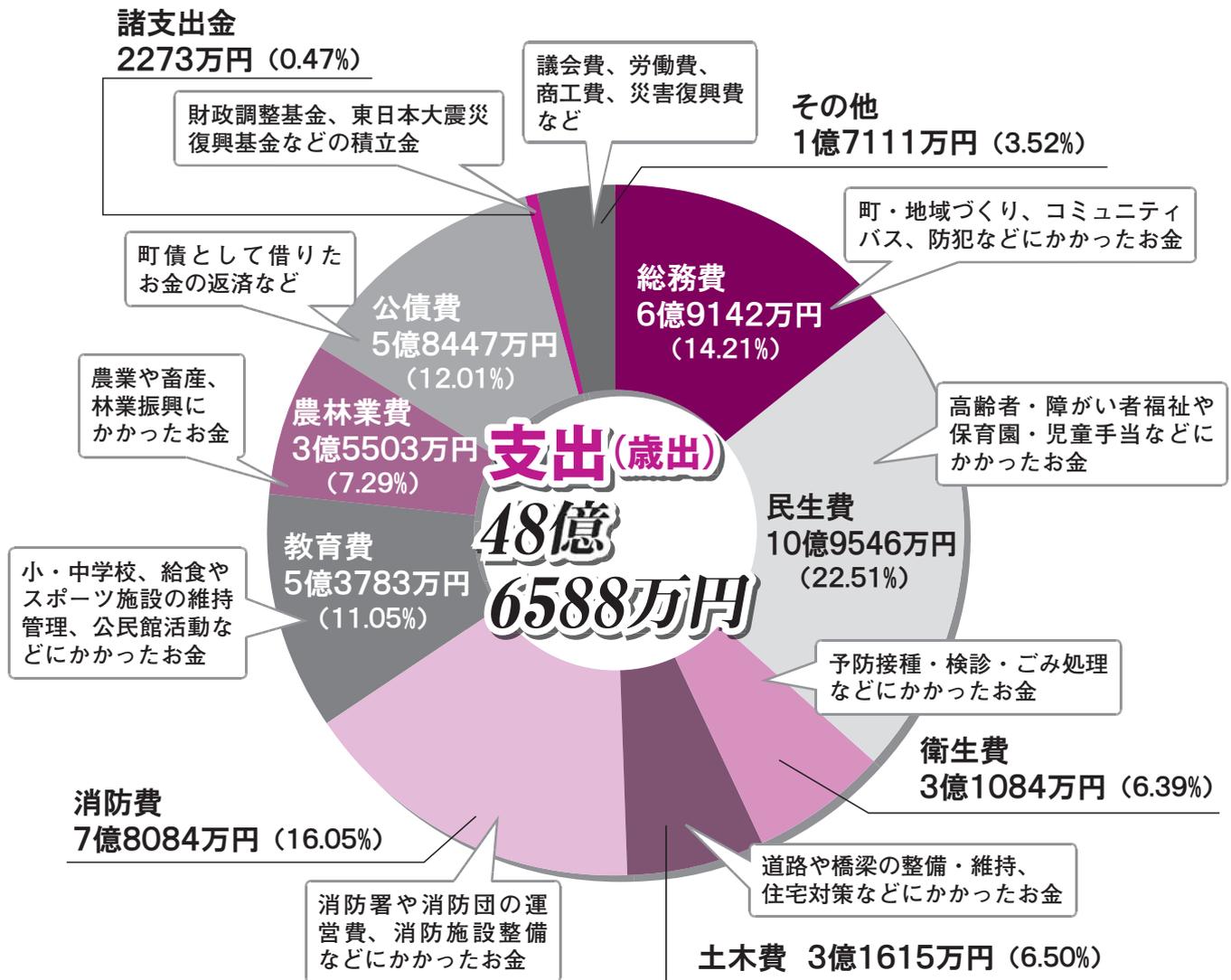
保育所増築・地域交付金制度創設、
河川監視カメラ設置、農林会館改修

一般会計歳出

48億6588万円

前年度対比2.32%増

決算審査特別委員会



町債(借金)と基金(貯金)の状況

(一般会計分)

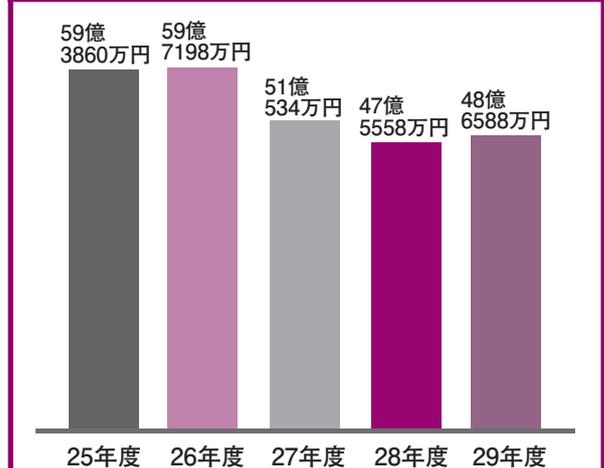
30年3月末日人口：5629人



町債(借金)
66億8668万円
町民1人あたり 119万円

基金(貯金)
55億75万円
町民1人あたり 98万円

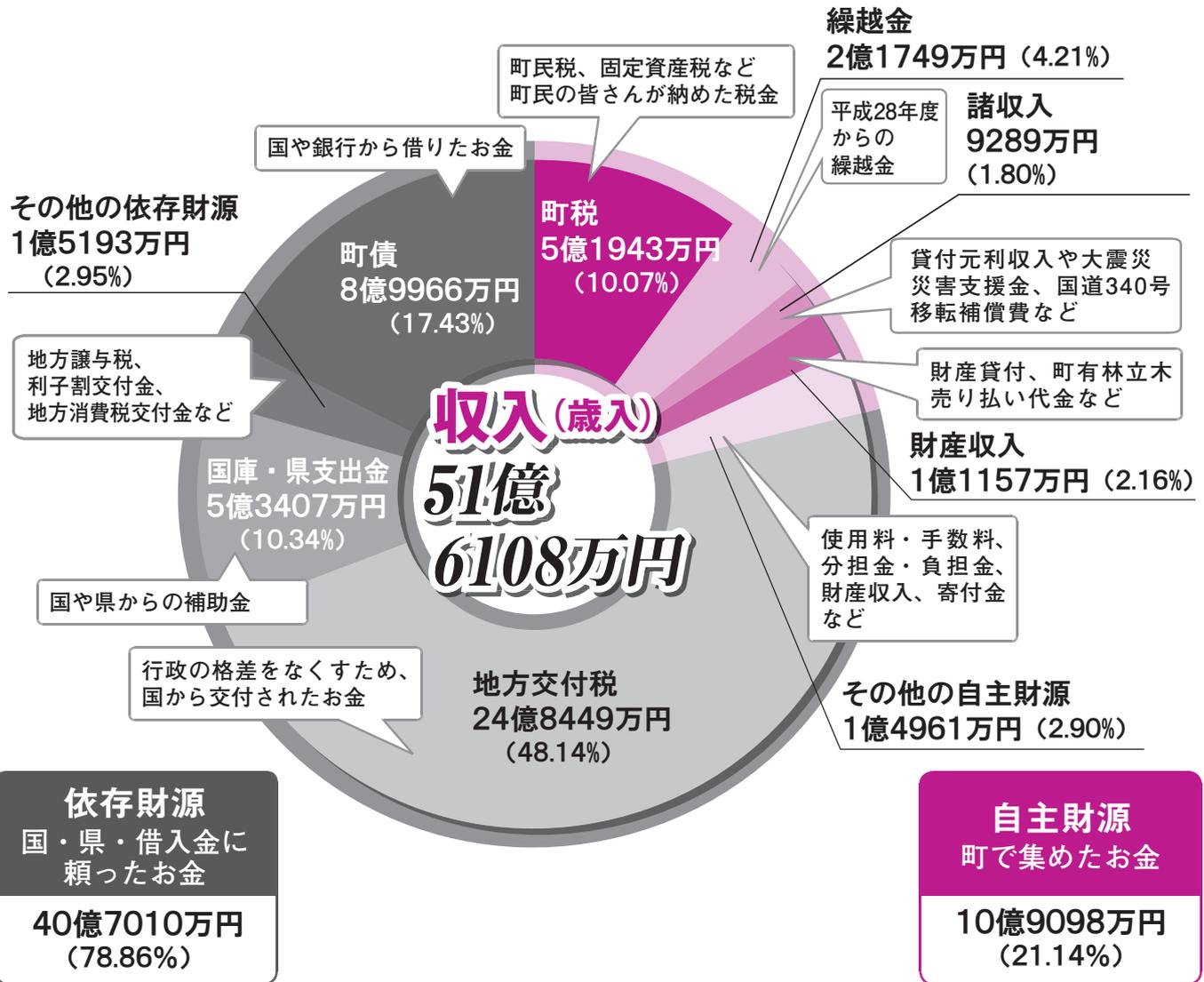
5年間の一般会計歳出決算の推移



29年度 決算

地域の特性を生かし安 防災の拠点 木造の消防住田分署建設

決算審査特別委員会



平成29年度 一般会計・特別会計決算の状況

会計区分	一般会計	特別会計						
		特別会計計	国保会計	簡易水道	下水道	介護保険		後期高齢者医療
						保険事業	サービス事業	
歳入	51億 6108万円	21億 2921万円	8億 5472万円	1億 8808万円	9049万円	9億 2028万円	328万円	7241万円
前年度比	+1億 8801万円	+ 807万円	- 6178万円	+ 1762万円	+ 982万円	+ 4158万円	+ 29万円	+ 54万円
歳出	48億 6588万円	20億 4239万円	7億 8491万円	1億 8807円	8881万円	9億 645万円	184万円	7231万円
前年度比	+1億 1030万円	+1億 1192万円	- 7221万円	+ 1770万円	+ 1077万円	+ 4432万円	+ 47万円	+ 57万円

質疑

決算審査

次に活かせ

ここが
聞きたい

特別委員会

29年度の一般会計及び各種特別会計の決算は、決算審査特別委員会（委員長・菅野浩正）に付託し審議しました。町政全般にわたり、数多くの質疑がありました。その中から、いくつかをお知らせします。

決算審査特別委員会

決算を徹底チェック

町のお金は適正・効率的に使われたか

総務課

自主防支援は

問 自主的防災組織への財政的支援処置は。

答 自治公民館活動に密接にかかわる自主防災組織の役割は大きくなっている。支援のあり方、防災士の育成も検討。



△頼もしい自主防「心肺蘇生法訓練」

問 町有施設の耐震診断結果は。

答 気仙地方森林組合庁舎の診断結果は、耐震処置が必要。



△「要処置」診断：森林組合庁舎

役場の停電対策は

問 庁舎設備の停電対策は。

答 自家発電で3日間対応できる。

決算審査意見

効果的な財政運営で 施策の展開を

代表監査委員 紺野 仁

決算審査に付された各会計の歳入歳出決算書等は、審査した結果、計数的に正確であり、実施事業は概ね所期の目的が達せられたと評価できる。

「森林・林業日本一の町づくり」にふさわしい役場庁舎や大船渡消防署住田分署の建設等により、木材の積極的な利用や重要性などを全国に継続的に発信するとともに、住民交流拠点施設「まちや世田米駅」を核とした交流人口の拡大、地域おこし協力隊・集落支援員等との連携

期待する。住民福祉向上に健全な財政運営を維持し、積極的かつ効果的に施策の展開を図ることを期待する。

企画財政課・税務課

蔵の改修は

問 住民交流拠点施設の蔵改修、保存調査は。

答 大きな蔵は駆体にひずみがあり、安全対策の柵を設置。今後の方針は検討中である。

問 地方交付税で公債費措置の占める金額は。

答 29年度は4億8000万円。今後6億円が見込まれる。

問 地域情報通信基盤施設積立金の目標は。

答 検討委員会を立ち上げ、専門家を交え計画作成の方向。

情報発信ツールは

問 情報発信ツール制作等支援業務委託事業は。

答 下有住・上有住地区の地域おこし協力隊の活動に結びつけるため、情報発信ツール制作を委託しサイトを立ち上げた。

不納欠損処理は

問 不納欠損処理のあり方は。

答 税金は法律で処理。私債権は法律の定めがないので、現在、債権管理条例制定の準備をしている。

公共交通は

問 地域公共交通会議の内容と課題は。

答 2月に1回の開催で、コミュニティバス運行路線確保や維持について協議。公共交通空白・困難地域対応が課題。

防犯灯設置は

問 防犯灯の設置状況、球切れなどの対応は。

答 29年度は19基、町内には650基が設置済み。球切れなどへは早急な対応を心掛ける。

町民生活課・保健福祉課

未来かなえ機構は

問 未来かなえ機構の加入状況は。

答 7月までの当町の加入は1766人で、人口の約31%となっている。

乳幼児検診は

問 妊婦健診や乳幼児検診の実態は。

答 妊婦健診は病院へ委託している。乳幼児検診や新生児訪問は100%になるよう努力。切れ目のないケアをしている。

安全安心農業は

問 安全安心農業推進事業は。講演会実施と今後

答 新しく取り組みの拡大を目的に講演会を実施したが、町内の参加希望者が集まらなかった。自然農法関係者と協議しながら安全安心農業を再考。

農林補助金増は

問 農林業費の県補助金の増は。

答 多面的機能支払交付金が新たに4カ所増。

農政課・林政課

コンテナ苗生産は

問 コンテナ苗の生産・需要状況は。

答 27年度、2戸の生産者で46万本生産、内コンテナ苗は11万本。コンテナ苗は植付け作業効率と活着もよく、今後も増えるものと思う。

木質エネ普及は

問 木質エネルギー機器の普及策は。

答 木質燃料燃焼機器設置事業費補助金事業です。25台が対象となった。



△威風堂々 蔵のこの後は…



△住民の足確保「コミュニティバス」



△「みんなでチェック」防犯灯



△再植林が大切「気仙地区植樹祭」



▷木質エネ機器設置補助を受けたベレットストーブ

委員長報告

特色ある教育の推進に期待

決算審査特別委員会

委員長 菅野 浩正

ひと、まち、しごこの創出で「住たい町」の実現を掲げる人口ビジョン・総合戦略・総合計画が二年を経過し、その進捗状況と財政運営が町、町民にとつての各施策にどう執行し、反映されたか審査を行ってきた。

文科省の研究開発学校指定を受け保・小・中・高と連携した特色ある教育の推進と、きめ細かな児童生徒支援。新たに整備された大船渡消防署住田分署を中心とした自然災害への対応。木工2事業体に対する融資金対応など、多岐にわたる質疑応答が展開され議論が深められた。審査の結果、一般会計は賛成多数、特別会計は賛成全員で認定することに決定した。

神田町政。一年が経過し「支え合う共生の町」医・食・住の3つの要を中心とした施策実現に向けた財政運営に期待する。

建設課

若者世帯住宅策は

問 新世帯の若者が町内に居住できる住宅対策は。

答 世帯を持った若者が入居できるような仕組みに向け検討する。

公営企業会計へは

問 簡易水道・下水道事業の公営企業会計移行に向けては。

答 28年度は固定資産の調査や台帳システムの発注、29年度は会計システムの構築を行った。32年4月移行の予定。



△世帯向け2階建て町営住宅

教育委員会

バス臨時運行は

問 スクールバスの臨時運行の内容は。

答 通学以外の利用で、中総体・文化祭などの教育活動参加のためのバス運行分。

給食食材は

問 学校給食食材の地元産の割合は。

答 野菜・肉類・米を合わせて57・19%で、前年度より若干増加。食の安全安心に留意し、食材を選定している。



△フル活用のスクールバス

世田米地区公民館は

問 世田米地区公民館は交流拠点施設と併設。公民館の機能は。

答 多人数の高齢者教室などは農林会館多目的ホールを会場とする。当面はこの状態が続く。

海外研修は

問 中学生の海外派遣事業は。

答 アメリカのサンデーエゴでの9日間の研修。交流会やホームステイでの研修成果は報告会で成果を共有している。



△栄養バランスの見本「学校給食」

9月定例会 29年度各種会計決算 採決状況一覧

○賛成 ×反対

議案	荻原勝	佐々木初雄	佐々木信一	瀧本正徳	菅野浩正	佐々木春一	村上薫	林崎幸正	泉田是重	高橋靖	阿部祐一	菊池孝	議決結果 (賛成・反対)
決算審査特別委員会	委員長(菅野浩正)は採決に加わらない												
認定第1号 一般会計	○	○	×	○	○	×	×	×	○	○	○	○	可決 (6:4)
認定第2号 国民健康保険	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決 (10:0)
認定第3号 特別会計 簡易水道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決 (10:0)
認定第4号 特別会計 下水道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決 (10:0)
認定第5号 特別会計 介護保険	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決 (10:0)
認定第6号 特別会計 後期高齢者療養	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決 (10:0)
本会議	議長(菊池孝)は採決に加わらない												
認定第1号 一般会計	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○	可決 (7:4)

反対

村上 薫議員

行政責任の表明を

三木とランパーへの融資金の本来償還されるべき元金償還金の返済が約1割にも満たない金額であること。調停申し立ては、債務者との金額の詰めを見誤り、町側に判断ミスであったといわざるを得ないこと。町民に明確な行政責任の表明や謝罪がないことから、一般会計決算に反対する。

討論

賛成

瀧本 正徳議員

町政推進を評価

木造消防分署整備や産業振興策など、諸策全般において少子高齢化や安心して暮らせるまちづくりにつながる施策が積極的に進められている。三木・ランパー問題は、町の将来を左右する大きな課題。町民の声や知恵を受けながら、関係者一体となった責任ある対応が急がれる。

木工2事業体 債権回収問題

「調停不成立」の経緯報告

三陸木材高次加工協同組合と協同組合さんりくランバーの両事業体及び町貸付金の連帯保証人に対し、貸付金返還等調停事件として話し合いを行ってきたが、調停による話し合いが終了したことの報告がありました。

この調停は、昨年7月の臨時議会で議決を得て、町顧問弁護士を通じて準備を進め、11月下旬に簡易裁判所に申し立てを行いました。

今年1月以降、2事業体と連帯保証人・相続人13人との間で6回にわた



△すみた木材が生かされるか さんりくランバー

り調停を行ってきた流れの説明がありました。

支払い折り合わず 手続き打ち切りに

両事業体と連帯保証人による支払額の提示に対し、当局側は「到底納得できる金額、内容ではなかった」とし、議会や町民の理解が得られる額として、財産開示を求めてきたことも説明されました。

裁判官から折り合うよう提案もありましたが、連帯保証人側は「受け入れられない」との回答だったため、和解・合意には至らなかった経緯が示されました。

「調停手続きは両事業体の存続のために行った手続きであり、けせんブレカット事業協同組合の

協力を得ながら、再建を図ろうとしたもの。今後は、町ができること、事業体ができることを整理し、町顧問弁護士らと相談しながら進める」との報告がありました。

「対策チーム」 発足へ

両事業体と連帯保証人に支払いを求めた調停が不成立に終わった中、当局から議会に、事業存続と融資金回収の両立に向けた「次の手段」を探る「対策チーム」設置の提案がありました。

チームには議員数人もメンバーに入り、当局と議会、関係者一体となって解決策を探る新たな展開となります。

「1000年に1度」どう備える 気仙川 大股川 洪水浸水想定区域



△県が説明会で示した洪水浸水想定区域図

県による「気仙川・大股川洪水浸水想定区域等の公表について」の説明が議会に示されました。

近年、水害の激甚化が危惧される中、想定できる最大規模として「1000年に1度」の豪雨を想定した洪水浸水区域図を公表。

「予想以上の想定で、どこにも逃げようがない」との声。これまで警報発令時などに避難所となっていた町役場が3〜5層の高さで浸水が想定されるなど、防災体制の抜本的な見直しが必要となつていきます。

一般質問

9月
定例会

一般質問は、議員が町長などの執行機関に対し、町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針など所信を聞き、報告や説明を求め、疑問点をたずねること。また、議員が主義、主張を述べ提案し論戦します。

一般質問の方法は、1回目は一括して質問しますが、2回目以降は1問ずつ質問する1問1答方式を採用しています。制限時間は、答弁を含めて60分です。

9月定例会では、7人の議員から14件の一般質問が行われ、町政全般について、2日間にわたり活発な議論が展開されました。

質問と答弁を要約した内容は、11ページから17ページでお知らせします。なお、全文記録（議事録）は、12月下旬から役場庁舎2階の総務課と町ホームページ上で閲覧できます。

我が町政を問う

教育・防災・産業振興 木工2事業体問題などで論戦

ページ	質問者	質問項目
11	荻原 勝	①教育振興施策
12	瀧本 正徳	①将来に向かう住田の産業振興策 ②社会の変革に応じた教育施策
13	林崎 幸正	①木工団地2事業体の未償還金等への対応 ②県道釜石住田線の道路改良
14	佐々木 初雄	①防災対策 ②鳥獣被害対策
15	佐々木 春一	①豪雨避難対策 ②引きこもり者（孤立する人）の実態と就労支援 ③三陸ジオパークと「関係人口」交流創出
16	佐々木 信一	①住田町人口ビジョン・総合戦略・総合計画 ②仮設住宅
17	村上 薫	①木工2事業体との調停不成立と今後の町対応 ②産業振興と経済力向上策



住高キャッチコピー
「ひと山越えに、
来ませんか？」
に込める思い…

議員のつぶやき

住田高校の 魅力向上は

教育委員長／ 自学自習支援事業を実施

我が町政を問う

荻原

勝議員



△住高生の「放課後の学び場」となる住田高校研修会館

問 教育委員会に新たに採用した教育コーディネーターの職務内容は、

教育委員長 住田高校の魅力向上、住高生の包括的な支援が用務となる。

問 今までの活動内容は、
教育委員長 住高生・保護者などからのヒアリングを実施した。その結果放課後、通学バスが来るまでの間、学習場所を確保することとした。この10月から実施される「住田高校自学自習支援事業」の取り組みとなる。

問 新たなポスターとリーフレットを作成しているが、その目的、特に強調した点は何か。

教育長 住高生の入学者増が究極の目的である。「二人ひとりが自己実現に向けて頑張れる学校である」ということを訴えている。

問 今後の活用方法は、
教育長 ポスターは150枚、リーフレットは3000部印刷した。これらはすでに学区内の中学校に郵送で配布している。

各教室にエアコン設置を

保健室への設置を検討



△エアコン設置が検討される保健室（世田米中学校）

問 町内の保育園・小学校・中学校における熱中症対策の現状は、
教育委員長 保育園はエアコンを活用している。小中学校では、各教室に扇風機を設置しているほか、児童生徒が、各自水筒を準備し、こまめに水分補給をしている。教職員による体調把握にも努めている。

問 地球温暖化などの気候変動のためか今夏は猛暑・酷暑が続いた。町内小中学校の各教室へ「エアコンの設置」を検討すべきでは、
教育次長 小中学校のパソコン教室にはエアコンが設置されているが、普通教室には設置されていない。

問 エアコン設置については、小中学校の各教室とはいかないが、緊急避難的な部屋としてまず保健室への設置を検討したい。

中学校の運動部においては、環境省の指標である31度を超えた場合に、屋外活動を原則中止としている。

エアコン設置については、小中学校の各教室とはいかないが、緊急避難的な部屋としてまず保健室への設置を検討したい。



議員のつぶやき

猛暑・豪雨、異常気象が続く温暖化防止策を進めねば…

町の将来を見据え 水素活用を

町長／総合戦略の

見直して検討

問 仕事の創出、産業振興は町存続の基盤。町内には全国に先駆け、水素エネルギー活用を進めている企業がある。産業や

温暖化対策の観点で対応すべきと思うがどうか。
町長 昨年度、住田町再生可能エネルギー活用推進計画を策定した。計画

のエネルギー源に、水素は入っていないが、総合戦略などの見直しの中で、どのように位置づけていくか検討。

問 ふるさと納税は、返礼品も関わる。原点は好きな・関係のある町への思いであるが推進策は。

町長 10月から返礼品のリニューアルや発送時期など魅力づくりを図る。地域産業の振興にもつながり、情報発信を含めて、物のみでなく返礼サービスのあり方を考える。

問 スマートフォンは非常に便利で生活に不可欠なものとなっているが、

教育委員長 この課題は、家庭や個人へ帰属性が高く一緒に取り組んでいくことが重要。学校では情報モラルを身につける指導、安全への知識などをあらゆる分野で計画的に進める。

教育委員長 公民教育などの重要性が増すものと思う。学校教育の各段階で認識を新たに情報の収集に努め、教育施策の展開を図る。地域行事参加など、大人社会との関わりを大事に「18歳で大人」の教育実践に努める。

その他の質問
・温暖化防止対策教育
・通学路の安全確保



△水素製造装置とフォークリフト
未来の燃料、水素利用の視察
(けせんプレカット工場)

問 FSC森林認証取得から既に14年、認証材活用を強く進めるべき。
町長 FSC森林認証に力を入れ、町独自の事業を展開し、平成29年度末には会員数376、管理面積は1万3923畝で、民有林の約60%を占めている。森林認証材の認知度アップや活用のた

問 スマートフォンは非常に便利で生活に不可欠なものとなっているが、

問 成人年齢が18歳、4年後の施行に向け周知と

問 成人年齢が18歳、4年後の施行に向け周知と

スマホ活用指導は 情報モラル教育で



△電話・カメラ・ビデオ・メール・百科事典、ゲーム機… 万能ツールのスマートフォン



念願の
県道改良が
始まる…

議員のつづやき

調停打ち切りはなぜか

町長／和解・合意に至らず

問 木工2事業体の未償還金などへの対応は、町の重要課題であると考えられる。調停申し立ての手続きが打ちきりとなったのはなぜか。

町長 連帯保証人から支払額の提示が裁判所に入り、町顧問弁護士を通じて報告があった。町民の理解を得られる内容でなかった。

議会と協議した結果、町では「再考されたい」と回答していた。裁判官から調停の提案もあつたが2事業体、連帯保証人は、提案は「受け入れられない」という回答。今後の進展が見込めないと

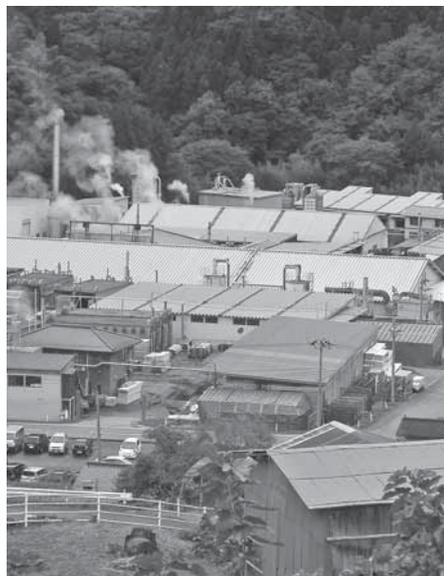
いう裁判官の判断により調停を打ち切ることになり、和解・合意に至ることができなかった。

問 今後、どのように進めていく考えか。

町長 町ができること、事業体ができることを整理し、顧問弁護士や外部の会計士などからアドバイスを得ながら、議会と協議する。取り進む方向性が見えてきた段階で町民に説明し、事業の存続に向け進めたい。

問 町民に経緯を説明し意見を聞くことが町政だと思ふが。

副町長 2事業体で新たな法的整理、私的整理が



△事業経営の安定と向上が待たれる2事業体

進むというのであれば説明が必要かと思っているが、現段階では、説明す

釜石住田線の調査費は 道路現況調査に着手



△早期着工が待たれる通称「おとし」

る内容に至っていないと
思っている。

問 県では、県道釜石住田線の道路改良に着手するため、平成30年度に調査費400万円を計上したと聞いているが、道路改良区間は、小松く中埜、土倉く大洞の2カ所の区間か。

町長 区間は間違いない。今回、県予算に計上された調査費は道路現況調査であり、問題箇所などを抽出するものとなっている。

問 事業期間は何年か。
町長 実際に道路改良を

行うには予備設計や詳細設計が必要となり、その後の改良工事となる。現段階では県より具体的な事業計画実施は示されていない。

問 早期完了が望まれるが。

町長 今後は、県からの今年度要望の回答を待つことになる。その結果によつては道路改良を早期に着手するよう、引き続き最重点項目の一つとして要望活動を進めなければならぬ。

我が町政を問う

林崎幸正議員



議員のつぶやき

増え続けるシカ、
ジビエで町の
産業にならない
かな…

災害に備えた 河川改修は

町長／緊急度・優先度で実施



△災害復旧工事により整備された護岸

問 町が管理する河川の防災対策は、住民の命と財産を守るうえで、河川改修が重要である。現状と対策は。

町長 町が管理する河川は、災害の復旧による護岸の整備や河道掘削による河川維持補修を実施している。防災上の緊急度、優先度を考えながら、災害予防に努めた河川改修を行っていく。

問 町が管理する河川改修の工事状況は。

建設課長 平成28年の台風10号の後、平成29年度より、限られた予算で優先度を考えながら有効に

河川改修を実施している。

問 緊急避難場所や避難所へ行く経路は、がけ崩れや土石流など2次災害が予想され、住民が迷うところが多い。2次災害を防ぐ防災意識の高揚や防災知識の普及をどう進めるか。

町長 町の防災対策の公助、自主防災組織の共助、家庭の対策の自助が互いに連携し、地域の防災力を高めていくことが重要。災害に備えて知識の習得や準備、地域や身の回りの危険箇所、避難経路を把握しておくことの必要性を呼びかけていく。

問 シカの有害捕獲は繁殖に追いつかない状況。農林業の被害対策をどう進めるか。

町長 鳥獣被害対策は、防護網設置による防除、獣を寄せ付けない環境整備、害獣の生息頭数を減らす捕獲である。農地と山際の草刈の徹底で獣のすみかとさせないことが重要。防護網や電気柵柵

里山のシカ対策を 環境整備と捕獲で



△人が近づいても逃げない里山のニホンシカ

問 想定外規模の災害が全国各地で発生している。災害が起きても安全な避難対策は。

総務課長 ハザードマップの全戸配布と防災訓練

を定期的にも実施している。各地域に合った避難ルートの設定について、どういう方法があるか、共同で行動できるものを作る。

問 シカの有害捕獲は繁殖に追いつかない状況。農林業の被害対策をどう進めるか。

設置の継続と効果的な施策を検討し進める。

問 里山近くのシカを駆除しないと、農作物の被害が減らない。民家近くの有害捕獲をもっと増やせないか。

町長 鳥獣被害対策は、防護網設置による防除、獣を寄せ付けない環境整備、害獣の生息頭数を減らす捕獲である。農地と山際の草刈の徹底で獣のすみかとさせないことが重要。防護網や電気柵柵

農政課長 有害捕獲は農家の方々からの情報を得て里山でもわなをしかけて捕獲の努力をしている。

町長 鳥獣被害対策は、防護網設置による防除、獣を寄せ付けない環境整備、害獣の生息頭数を減らす捕獲である。農地と山際の草刈の徹底で獣のすみかとさせないことが重要。防護網や電気柵柵

農政課長 有害捕獲は農家の方々からの情報を得て里山でもわなをしかけて捕獲の努力をしている。



議員のつぶやき

災害から命を守る
手立ては…
日頃からの
心構えを…

我が町政を問う

ささきはるかす
佐々木春一 議員

町長／登録者数145人

要援護者の 情報共有を

問 土砂災害に対応するハザードマップによる適切な避難行動、マニュアルをどのように周知していくか。

町長 町防災マップを活用して、地域や身の回りの危険箇所、避難経路を把握し、逃げ遅れゼロにつなげていきたい。

問 集落における高齢者など災害弱者、要支援者の情報共有と対策は。

町長 災害時要援護者の登録数は145人。民生

委員や町、警察、消防と情報を共有し、安否確認や避難支援に活用。

保健福祉課長 現状では要支援者情報は自主防災組織や消防団には届いていない。個人情報保護を配慮しながら、もつと地域と情報共有していきたい。

問 福祉避難所となっている福祉施設は河川に隣接しているが対応策は。

町長 非常災害計画策定と避難訓練を義務化。各

施設の立地状況を考慮し、町も一緒に実効性のある計画策定を進める。

問 地域防災活動の強化につなげる人材として防災士の育成を。

町長 リーダー養成と防災知識の習得、普及は急務である。

総務課長 リーダー的な存在の配置は重要であり



△災害時に備えて人命救助訓練を行う消防士（世田米大崎地内）

防災士の育成支援充実を検討する。

問 引きこもり者や長期不就労者の実態を把握しているか。

町長 引きこもり者など社会参加活動に関する実態調査を実施し、10月中旬に調査結果がまとまる。

問 生活困難者の社会復帰に向けた受け皿を整備すべき。

町長 地域にこまめに訪問し、個別の相談対応、

ジオパークを活かせ 滝観洞の魅力発信



△3億年前の石炭紀の鍾乳洞。落差29mの「天の岩戸の滝」を売り込むとき。

問 三陸ジオパークを交流人口拡大にどう活かしていくか。

町長 「滝観洞」や種山ヶ原、「道の駅ほらん」の魅力を発信し、交流人口の拡大に取り組む。

問 当町におけるジオサイトや里山暮らしインストラクター、森の案内人、SUMICAによる「関係人口」創出の取り組み

が結実してきている。継続的なつながりを持つべきであるが。

町長 交流人口拡大による地域活性化や経済効果を期待。課題解決や活性化にかかわる関係人口や住民の輪を広げたい。

※引きこもりとは、社会的参加を回避して、6カ月以上にわたっておおむね家庭にとどまり続けている状態。

関係機関との連携により、生活困難者の社会復帰や社会参加の相談、支援に努める。

※ジオパークとは、地質学的に重要な地形や地層を保全、活用する自然公園を指す。



議員のつばやき

若者が住みやすい環境づくりがもっと必要と思うなあ

木造仮設の検証を

町長／全住宅の撤去後

問 仮設住宅の建設から住民支援まで行ってきたが、取り組みの検証は。

町長 町内に生活する被災者全員の再建が完了し、木造仮設住宅をすべて解体、再利用後に初めて検証を明らかにする。

問 今後の広域災害への備えをどう充実させるか。

町長 「木造仮設住宅の整備システム」化を国交省や林野庁、各団体に提案。地域流通している木材で建設されている。課題は、常に一定の在庫を



△利用期限がせまる木造仮設住宅

保有し、備蓄の場所確保、カビの発生防止など管理方法にある。

問 後方支援として、町の取り組みは。

町長 設計図面など的一般公開、都内での木造仮設住宅の展示など情報発信をしてきた。近年の災害における各地の仮設住

宅整備に活かされている。

問 木造仮設住宅の利用期限をいつまでにするのか。

町長 被災者支援の終了、縮小、木造仮設住宅の老朽化、被災者の円滑な再建などを総合的に考慮し、

利用期限を原則平成32年3月末までとしている。
問 期限後も町内に暮らし続けたい人々の対応は。

町長 希望条件により空き家、町営住宅、民間住宅などを紹介していきたい。

町長 希望条件により空き家、町営住宅、民間住宅などを紹介していきたい。

児童数確保の取り組みは計画見直しで検討



△町人口ビジョン、総合戦略、総合計画の最終目標達成を目指す

問 町人口ビジョン・総合戦略・総合計画を策定した。計画に掲げた児童数確保の取り組み状況は。

町長 児童数1学年20人に対する年度目標達成率は64・5%、最終目標到達率は50%である。人口、児童数の確保は厳しい状況であり、来年度の計画見直し検討課題と捉えている。

問 生活環境対策における、買い物、交通、医療の住民満足度50%を目指すとしているが。

町長 買い物、交通は前年度と比較し上昇した。一方、医療は1・9%

下落し、年度目標は達成されていない。
問 町内にいながら、仕事で生活できる収入、賃金確保は。

町長 町民所得は、目標値233万1千円に対し、245万円、最終目標255万3千円までの到達率は96%である。最終目標達成を目指している。

問 空き家、古民家改修など若者が定住しやすい環境づくりの取り組みは。

町長 若者が住宅を求め、空き家の改修事業に取り組んでいる。



議員のつぶやき

調停不成立、
これで終了ではない。
むしろこれからが
正念場

債権回収 行政責任 どう捉えているか

町長／責任は当然 大なり小なりある

我が町政を問う

むら 村上
かおる 薫
議員



△町の1年分予算の約2割相当額が融資されている2事業体。返済に向けた新たな対応が望まれる

問 木工2事業体に係る調停申立てが不成立に終わった。事前の見通しが甘かったのではないか。

副町長 当初は、話し合いが成立するという中心で進んできていると思っていた。

問 今後の対応をどうするのか。

副町長 事業体側で、できる法的整理、私的整理などがある。まずそちらを考えて頂きたい。相手方がどのような決断するかでこちらの決断が変わってくる。債権の回収は進めて行く。

問 調停不調に至った責任の所在は。

副町長 貸し付けは、当時の政策判断、議決を得て行っている。当然債権の回収はしなければならず、その意味での責任はある。

問 「町はこれ以上融資はしない」と言ってきた。変わりはしないか。

町長 これ以上の融資はあり得ない、と考えている。
問 行政責任をどう捉えているか。

町長 調停に至るまでの責任は、当然大なり小なりあるのが普通と考える。



畜産振興、具体的施策構想は

今後関係者と意見交換

△林業と共に町産業の両輪を担う畜産業。一層の耕畜連携が期待される一(有)ありす畜産飼料製造プラント

問 畜産振興基金を新たに創設した。具体的な施策構想と将来展望は。

町長 畜産は、本町の農業生産額の9割を超える重要な位置づけ。具体施策は、畜産関係者や農業振興協議会で意見交換し、まとめていく。

問 畜産事業所や関係者の課題、今後の計画などを把握しているのか。

農政課長 基金創設もあり、訪問し意見交換をし、より良い方向を目指していきたい。

問 他市町村にあって町にないのが観光推進計画。観光入込客数県下最下位グループをどう打開する考えか。

町長 観光推進計画は必要。観光協会の観光プラットホームなどの議論が進むことにより計画策定へとつなげて行きたい。

問 町国際交流協会立ち上げへの支援を。

教育長 町にも協会があつてほしいと思う。教育委員会として支援はしていきたい。

一般質問その後 どうなりました

あの提言

一般質問は、議員に与えられた重要な権限の一つですが、ここでは、一般質問のその後「どうなりました あの提言」として、過去の一般質問や議案審議などが町政にどう反映されているのかお知らせします。

掲載内容は、平成18年以降の質問から議会広報編集常任委員会で1項目を選び、その後の状況などを追跡しました。

特集

町と、議会と、町民は
64

質問

合併処理 浄化槽で 環境改善を

快適で便利な生活環境のため、トイレや台所などの雑排水の汚水処理は合併処理浄化槽による処理が不可欠。

答弁

浄化槽設置に 補助金交付

河川などの水質及び環境の保全対策として、公共下水道への接続率の向上と、下水道区域外の合併浄化槽設置整備事業費補助金を交付し、普及拡大を図る。

その後



△水質や環境の改善が図られる合併処理浄化槽

下水道区域外に 補助金交付

下水道区域外（世帯数1,390戸）に平成29年度末実績で408基（29.4%）の合併処理浄化槽が設置され、水質や環境の改善が図られている。

大船渡地区 消防組合議会

8月10日、第1回臨時会が大船渡市役所で開催され、財産取得2件、財産の無償譲渡1件が審議可決されました。

住田町に関わる案件は、

●水槽付きポンプ自動車1台。この車両はCAF C（圧縮空気泡消火装置）

や救助資材を搭載した最新高機能車両です。取得

予定価格4946万円。

現在の車両は20年以上経過しており、更新により消防力の充実強化が図られます。

旧住田分署庁舎を住田

町に無償譲渡。この分署庁舎は昭和49年度建設で、老朽化もあり解体の予定となっています。

町に無償譲渡。この分署庁舎は昭和49年度建設で、老朽化もあり解体の予定となっています。



△解体予定の旧分署
「長い間ありがとうございます」

追跡



私の意見を 聞いて!

補助金は大助かり



吉田 次男 さん

(下有住字十文字)

我が家は、築90年の住宅です。昨年、住宅リフォームを行い、台所や風呂の水回りを大改修しました。合わせて排水に合併浄化槽（7人槽）を設置、トイレを水洗化しました。台所や風呂水の雑排水の処理では苦慮していましたが。浄化槽は定期的に検査もあり、水質改善に役立ち、生活環境保全や清流気仙川を守るためにも喜ばれます。下水道のない地域には、合併浄化槽の設置はお勧めです。

孫たちも安心



林崎 より子 さん

(上有住字中沢)

本町の浄化槽の支援は他の地域に比べて、大変充実していると感じています。リフォームの負担軽減、浄化槽の助成など家庭には大変有り難い制度です。私の世代には当たり前の汲み取り式トイレでした。しかし孫世代は水洗トイレが当たり前になっています。孫達は敏感で、変わったトイレは不安要素になっています。浄化槽にして一番うれしいのは、孫たちが安心して遊びにこられる環境を整えられたことです。水洗トイレにするための支援には感謝しています。

傍聴に

来てけらっせん!!

次回の定例会は12月11日(予定)から
開会は10時です。

詳しくは議会事務局へ ☎ 46-3754 (直通)
E-mail gikai@town.sumita.iwate.jp



世田米字暇畑

佐藤 鉄男さん

私も ひとつ 甘口 辛口

80



上有住字八日町

岡本 育子さん

充実した介護サービスに感謝

●今活動していることは
自治公民館と地区の体育協会の役員として活動しています。週に一度、社会体育館で卓球を楽しんでいます。

同事業所が継続できるよう、より良い解決を希望します。

●気になっていることは
新聞報道等でも話題になっていますが、三木・ランバーの問題です。町への借金、私たち町民一人ひとりのお金です。

●議会や町に望むことは
母が町内の施設で、デイサービスとショートステイのサービスを受けています。今後とも、介護サービスが安心して受けられるようお願いしています。

高齢者への気配り充実を

●今活動していることは
玉泉寺で御詠歌「梅花講」のお世話をしているほか、地区のよりあいかフェ「あんるす」にも参加しています。今の時期、「大樹祭」の準備などもあり充実した毎日です。

い、買物に不便を感じています。
遠野からの無料買物バスも月1回になりました。

●気になっていることは
遠野行コミュニティバスは一日2本で、日曜祝日は運休です。病院通

●議会や町に望むことは
耳が遠くなり、防災放送が聞こえない時があります。病気でポタン一つ押せない時もあります。町には、年寄りへの更なる気配りの充実をお願いしたいです。



△大股地区生涯スポーツ大会



△ふれあいを深めるよりあいかフェ「あんるす」

表紙の写真 有住保育園



10月3日、有住保育園で行われた交通安全教室の様子です。
この日は、有住中学校までの道のりを、入念に安全確認しながら歩きました。

年長のお兄さんお姉さんが、小さな子としてかり手をつないで案内する姿は、とても頼もしく思えました。

あしがき

▼今年夏は夏の猛暑と収穫期の台風の影響で、出来秋の成果はいかがでしたでしょうか。
▼9月議会は決算審査議会です。前町長から引き継いだ神田町政の29年度事業効果を検証。多岐にわたる質疑応答で議論が深められました。

た。新たな方策を見出して、今後どう進むか大事なところです。
▼11月は「住民と議員との懇談会」が開かれます。地域の皆様との意見交換を楽しみにしています。
(佐々木初雄)

広報編集常任委員会

発行責任者

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 菊池 孝 |
| 委員長 | 佐々木春一 |
| 副委員長 | 瀧本 正徳 |
| 委員 | 菅野 浩正 |
| | 佐々木信一 |
| | 佐々木初雄 |
| | 萩原 勝 |



すみた 議会だより No. 163

平成30年10月26日発行

発行/住田町議会
編集/広報編集常任委員会

〒029-2396 岩手県気仙郡住田町世田米字川向88-1
TEL 0192(46)3754(直通) 内線511 FAX0192(46)2018
http://www.town.sumita.iwate.jp